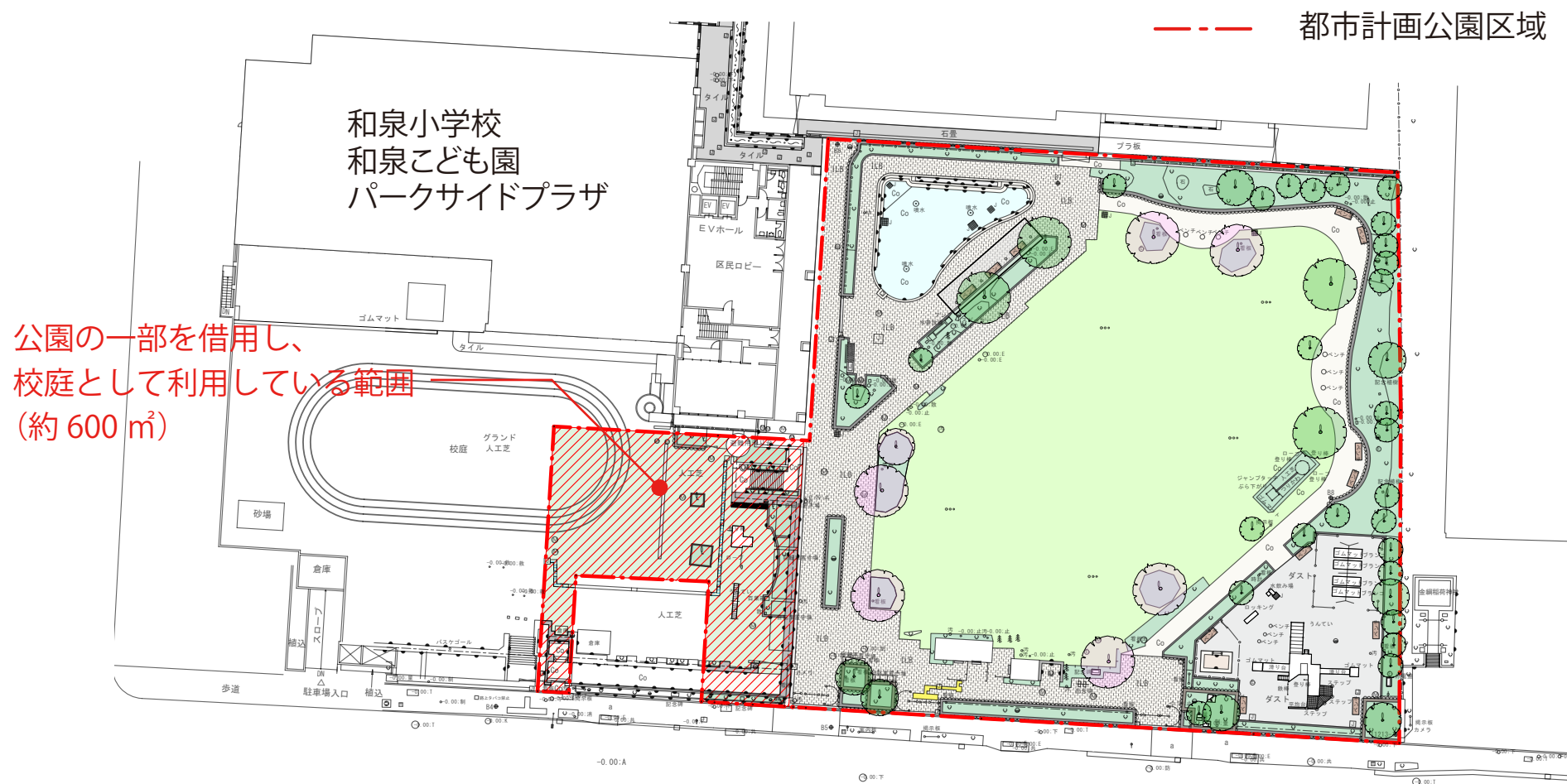


公園の現況と課題

■和泉公園の概要



所在地	神田和泉町1番地300
種別	都市計画公園街区公園
都市計画の経緯	昭和50年2月19日都市計画公園決定の告示 →昭和59年7月3日名称・区域変更
区立公園の開園年月日	昭和54年3月30日(平成20年和泉小学校校庭拡幅工事に伴い改修)
敷地面積	4607.71㎡ 但し、南西部は学校の校庭として利用されているため、実際に公園として利用できる範囲は約4,000㎡
所有者	千代田区
管理者	環境まちづくり総務課(財産管理)、道路公園課(維持管理)
公園のルール (現地看板による)	・ボール遊び禁止(子どもの遊び場事業を実施する時間帯はボール遊び可) ・火気や花火の使用禁止 ・芝生広場内は、ベットの散歩不可
設備、施設等	ドライミスト/井戸/噴水/スプリンクラー/足洗い場/水飲み場/時計/防犯カメラ/ベンチ/かまどベンチ/トイレ/レンタサイクルポート
遊具	健康器具/スプリング遊具/ブランコ/砂場/鉄棒・滑り台等を兼ねた複合遊具

■現在の公園の使われ方

利用状況	現況の使われ方	写真
一般利用	- 散歩、休息、談笑、食事 - 遊具、水景施設の利用 - 北側道路（千台第3号）、三井記念病院への通り抜け	  公園内でくつろぐ様子 通り抜け通路としての利用
子育て利用	- こども園や周辺保育園の代替園庭 - 子どもの遊び場事業 →毎週木曜 15:00-17:00、土曜 14:00-16:00 で実施	  園庭利用の様子 子どもの遊び場事業の様子 (参考：子どもの遊び場事業 HP)
地域活動利用	ラジオ体操や、お祭りなど地域行事の実施	  納涼大会の様子 ラジオ体操の様子
健康増進利用	- 園路内での散歩等の運動 - 健康遊具の利用 - 三井記念病院利用者の散歩や憩いの場、リハビリへの活用	  芝生広場の健康遊具 病院利用者の公園利用
防災利用	- 小学校、周辺企業の避難訓練場所 - 災害時のトリアージ空間としての補完的利用 - 建設型応急住宅建設予定地（千代田区地域防災計画より）	 災害時の活用が想定される芝生公園

■和泉公園の魅力と課題（意見交換たたき台）

■全体的な魅力

- ・和泉橋地域では貴重な豊かな緑とオープンスペース
- ・子どもからの人気が高い遊具と水景施設の設置
- ・イベントに活用できるまとまりのある芝生広場
- ・施設のロビーや病院、通り抜け通路があることで人が奥まで行き交い見張り機能が働く安全な環境

■全体的な課題

- ・周辺環境との一体性の不足
- ・日陰の遊び場の不足
- ・ベンチやテーブルなど滞留、活動を促すファニチャー類の不足
- ・インクルーシブ遊具の不足
- ・先駆的活用(プレーパーク、ドックラン等)の更なる推進
- ・デジタル化に対応した機能向上



区民ロビーと周囲につながる動線や
水景施設により、人が自然と集まる場



共通の出入口により、こども園と地域利用の動線が混在



校庭との高低差による空間の物理的分断

公園の魅力 (ピンク)
公園の課題 (青字)
魅力又は課題 (グレー)



北側道路と接続し地域の回遊ルート
として機能



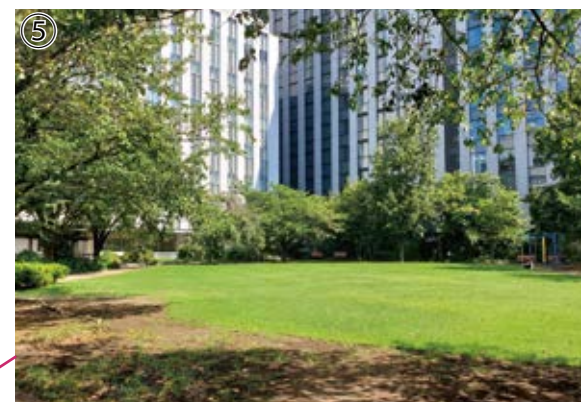
三井記念病院と接続



低木や柵による病院との物理的分断



桜を鑑賞できる芝生広場
(写真は秋の桜の様子)



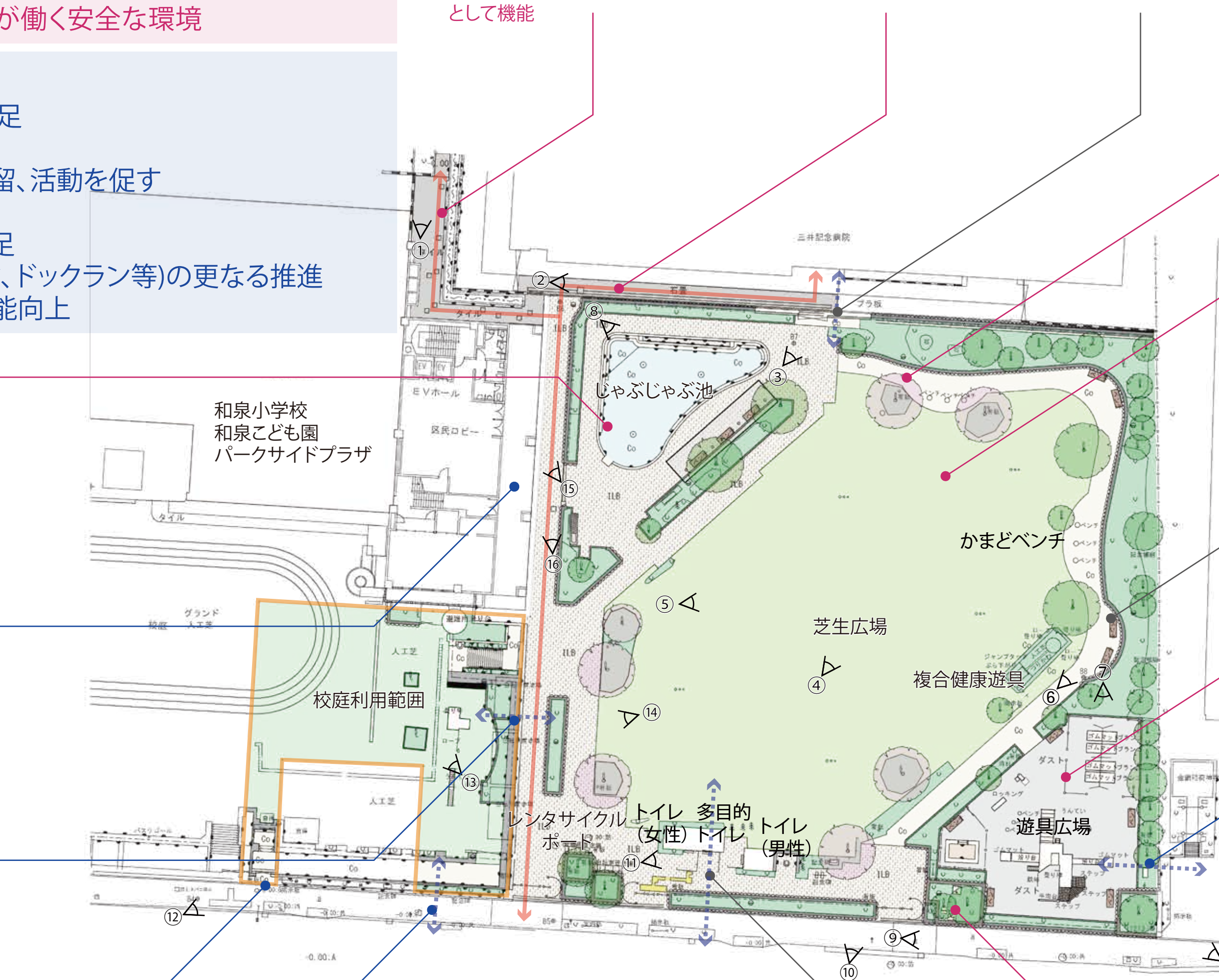
豊かな緑とオープンスペース



芝生広場から距離があるベンチ、
滞留空間としての使われ方



子どもで賑わう遊具広場



学校用地として借用しているため、公園として利用できない都市公園区域



校庭との高低差による歩道との物理的分断



トイレによる視線・往来の阻害



高木・低木による道路空間への緑陰と潤いの提供



電線の地中化により、歩道が広々とした開放感のある学校通り

第 1 回検討会の主な意見

項目	意見	対応時期	対応の方向性
進め方・スケジュール	公園を使えない期間が長くなるのであれば、代替措置を考えていただきたい。	事業期間中全般	公園を利用できない期間を極力短くするとともに、代替措置を幅広く検討します。
	10 年先、20 年先にどうかたちが理想的かを長期的な視野で考えていただきたい。		長期的な視野に立って、理想的な学校等施設及び公園のあり方を検討します。
和泉公園の現況及び課題	じゃぶじゃぶ池は重宝している。工事期間中に使えなくなることが心配。	構想・計画段階 設計段階	じゃぶじゃぶ池については、維持管理のあり方にも配慮しながら、工事期間中の代替措置も含めて、検討します。
	病院には井戸はないため、断水時の対応についても検討していく必要がある。	計画段階 設計段階	災害対策用井戸の必要性等も含め、検討します。
	ビル風の公園というイメージがある。 風の問題は解決できるとよい。	構想・計画段階 設計段階	再整備の計画がビル風の軽減に寄与できると非常に良いと考えています。
	秋葉原が近く、治安的な不安がある。	計画段階 設計段階	死角をつくらないなど、治安悪化を招かないような施設計画上の配慮を十分に行います。
	ボール遊び禁止だが、ルールがおざなりになっている。休日には、フェンスのある校庭を高学年が球技に使えるようになると良いと感じる。		施設計画と公園の利用ルールの設定の両面から、多くの方が自由につかえる公園を目指します。
	トイレの入り口が道路側に面しており、公園側からは見えなくなってしまう。職員が誰かついていかなければいけない。		防犯面、景観面、使い勝手の面等、多面的観点からトイレの配置と施設計画を検討します。
施設の現況・課題	火事、災害時に校庭に消防車等の緊急車両が入れない。 全面道路と校庭をフラットにすることで解決できると良い。	構想・計画段階 設計段階	緊急車両が建物近くへ寄り付くことができるような計画とします。
工事	下校時は子どもが興奮して動き回るため、工事の際には安全性を担保していただきたい。	施工段階	工事期間中の安全性の確保、騒音の軽減等には十分に配慮します。
	生活している横での工事となるので、昼寝等に影響が出る可能性がある。		
今後の整備	高齢者と園児と一緒に交流できる場所があれば良いと思う。	計画段階 設計段階	施設への導入機能のあり方も含め、検討します。
	公園と校庭を一体的に整備するという案には困難もあるかもしれないが、是非ワクワクするようなものになるよう検討を進めてほしい。	事業期間中全般	
	児童が授業間に移動しやすいように検討していただきたい。	計画段階 設計段階	都心部の学校の宿命として、上下方向の移動がどうしても多くなりますが、極力それを減らす工夫を行います。
	小学校として図書館が不足している。現在は、児童数の増加に伴い、廊下に本を置いている。	構想・計画段階 設計段階	小学校専用の図書室を確保します。
	こども園への送り迎えの動線をスムーズにしていただけると保護者は嬉しい。南から登園する保護者が多いため、その方向からのアクセスのしやすさを考慮した計画としてほしい。	計画段階 設計段階	利用者動線に配慮した施設計画とします。
	小学生が医療に携わりたいと思ってもらえるような、何らかのプログラムや連携を考えても良いのでは。	事業期間中全般	学校と病院の連携については継続的に検討していきます。
	入院フロアは7階から上であり、患者のことを考えると、圧迫感の軽減を検討してほしい。	構想・計画段階 設計段階	隣接する建物及びその周辺の環境を十分に配慮しつつ、配棟計画や計画建物の高さ等を検討します。
	千代田区側の入口は外来患者の入口になっており、景観は配慮してもらいたい。		
公園と校庭の一体的利用	公園と校庭の兼用について、小学校の終業後にこども園や学童が夕方まで活用している状況がある。土曜保育でも活用している。そのあたりも含めて検討してほしい。	構想・計画段階 設計段階	公園と校庭の共用については、セキュリティや利用区分、維持管理等のあり方を総合的に勘案しながら検討します。
	校庭開放のときも問題になるのが安全面。誰でも入ってこられる。セキュリティが課題となるだろう。		
旧和泉町ポンプ所跡地	子どもが遊べる場所になれば、周辺の保育園にとっても良いのでは。	構想・計画段階	導入機能等、施設のあり方について、検討を深めます。
	公園の多機能化に向けて、部屋の中での活動はポンプ所跡地を活用し、外の活動は公園を活用するという考え方もあるかもしれない。		
	あえて学校から離れていることを活かした、様々な児童のための居場所というアイデアもあるかもしれない。		

関係者ヒアリングについて

■調査概要

- ・学校関係者、施設運営者、地元関係者、施設及び公園の利用者等を対象に個別にヒアリングを行い、現在の施設、公園が抱える課題、移転建て替えへの期待等を詳細に把握

■主な意見

凡例	整備にあたり重要な視点や考え方	現在の利用状況や課題	整備における期待やニーズ
----	-----------------	------------	--------------

施設・公園の配置形態、校庭と公園の一体的利用について

配置形態	・不特定多数の人が利用できる公園部分は佐久間学校通りに面していた方が良い。 ・現在の周辺保育園の利用状況では、和泉公園でも狭いので、新しい公園はできるだけ広くしてほしい。 ・隣接する病院の入院患者から見た際に、病室からの見晴らしなど少しでもゆったりしたものにしてほしい。 ・入院・外来患者の多くは秋葉原側から和泉公園脇を通過して病院に出入りしており、佐久間通りから病院へのアプローチを確保してほしい。
校庭と公園の一体的利用	・校庭は狭いため、校庭として使えるスペースが広がるのはよい。運動会やイベント時にタイムシェアできるとよい。 ・校庭を公園と兼用する場合、建物入口の一元化など建物側、公園側のセキュリティを十分に確保すべき。

スケジュール、工事期間中（公園閉鎖期間中）の配慮事項

- ・学校、公園利用者、病院患者等のことを考えると、公園の閉鎖期間が長いことは気がかり。
- ・和泉公園は、1～2歳児が使える安全な場所（芝生・走り回れる空間・砂場等）であり貴重。3～5歳児は佐久間公園はじめ複数の選択肢がある。
- ・代替公園に特に1～2歳向けの遊具・遊ぶスペースがあるか不安。佐久間公園は公園から道路にすぐに出られてしまう。旧ポンプ所跡地は遠い。

施設に関する意見

施設全体	・小学生と園児が日常的に顔を合わせる環境は教育的にも良く、維持したい。 ・老若男女が小さい子と触れ合える機会やスペースのある施設・公園になると良い。各世代で親睦を深められるような使い方ができると良い。 ・学校施設の安全性を確保するため、階段やエレベーター等の動線は一般と学校施設で明確な区分が必要。 ・災害時に複数方向避難ができる動線計画が必要。 ・画期的なITを取り入れる、海外の方々と通信できる環境を整備するなど、最先端な技術を用いた施設にしてほしい。
和泉小学校	【教室・特別教室】 ・教室が狭い。ロッカーやタブレット等を置く場所が必要。 ・多目的ルーム、利用しやすい図書館、身体を動かせる屋内スペース、男女別更衣室・休憩室があると良い。 ・特別支援教室拠点校であり、適切な環境を設えた通級指導教室、相談室（3～5部屋）を設置してほしい。 【職員室、会議室等】 ・職員数は約50名、職員室はかなり狭い状況。 ・会議室がなく、現在は職員室で小さく集まり会議をしている。 【校庭】 ・放課後は放課後子ども教室「あそび」（～16時）、その後はこども園の園児が利用している。 ・休日8時半から17時頃まで少年野球が利用。 ・納涼大会では、校庭を利用。来場者が増えたため近年は校庭と公園の両方を使い開催。 ・グラウンドは土埃が立たない天然芝が望ましい。 ・近年の夏の猛暑対策（陽射し避け、ドライミスト等）は必要。 【校庭の地下倉庫】 ・町会と小学校で兼用している校庭下の倉庫は、新校舎にも同等の倉庫面積を確保してほしい。町会の倉庫が手狭になっている。
いずみこども園	【保育室等室内環境】 ・独立した広い玄関、ベビーカー専用置き場、園児数・職員数に対応した調理室があると良い。体調不良の園児の待機室が必要。 ・職員室が狭く、休憩室がない。パークサイドプラザ7階を男性用更衣室兼倉庫として利用。更衣室、倉庫も不足している。 【園庭】 ・小学校校庭と園庭だけでは、遊び場が不足。保育室と同じフロアで直結し、職員室から目が届きやすい園庭があると良い。
いずみこどもプラザ	・学童クラブの定員は90名。6階に2部屋（30名×2）、7階に1部屋（30名×1、和室を利用）。学童スペースは足りていない。 ・いっとき預かり保育は、5階の区民図書室奥の一教室を活用。 ・現状、5、6、7階に分かれているがワンフロアに収まると良い。 ・子ども専門の施設として配慮することで安全に利用できる。ボール遊び等に適した体育施設、工作室、調理室、防音の部屋（楽器、プロジェクターで映画やゲーム）等があるとよい。
パークサイドプラザ	・この施設は、地区の防災対策拠点となる場所。救援物資の受け取りや、洪水浸水への対応も考慮が必要。 ・防災倉庫は地域から浸水の可能性が指摘されており、設置場所を検討してほしい。

公園に関する意見

小学校こども園	・新しい公園には、子どもたちが自由に工夫して遊べるような広々とした緑豊かな環境を整えることが重要。 ・トイレは継続して設置してほしい（運動会時に使用）。現状では子どもの姿が見えにくいため、トイレ入口を公園側に設けてほしい。 ・こども園では、和泉公園の入り口付近にある花壇を借りて利用しており、空間を確保してほしい。 ・夏場でも遊べる環境を整えるために、大きな日陰をつくる樹木とミストを設置してほしい
周辺保育園	・外神田、台東区も含めてかなりの保育園が園庭代わりに午前中利用している。少し分散できないと厳しい。幼児（3～5歳児）は、他公園の選択肢があるが、乳児（0～2歳児）は和泉公園の他に選択肢がない。 ・ボール遊びは禁止のはずだが、ボールで遊んでいる園もある。ボール遊びOKな場所があると住み分けができてよい。
周辺町会	・連合町会の納涼大会、合同ラジオ体操に利用している。納涼大会では、校庭は飲食禁止のため、校庭に檯、公園で飲食ブースを出店している。 ・高齢者向けに、公園内に健康遊具を配置した方がよい。
隣接病院	・緊急災害時の軽傷患者等のトリアージ空間を公園に設けることになっている。（発災直後は病院で対応、その後区に引き継ぎ） ・病院でもBCPの中で水は確保しているが、既存の井戸水を浄化して医療に活用することも検討してほしい。 ・患者からの希望があれば看護師が散歩に公園を利用することはあるが、公式なりハビリコースには設定していない。
その他	・平日の午前中（～11時頃）は、保育園児が多い。昼は近隣のサラリーマンや三井記念病院の職員、午後は小学生（おもに低学年）、中学生（15時以降）が利用している印象であり、フルに活用されている。 ・桜観賞、どんぐりや昆虫採集（こども園、ボーイスカウト）をしており、自然環境豊かな公園に整備してほしい。 ・風や土ほこりはすごい。

和泉公園利用状況調査について

■調査概要

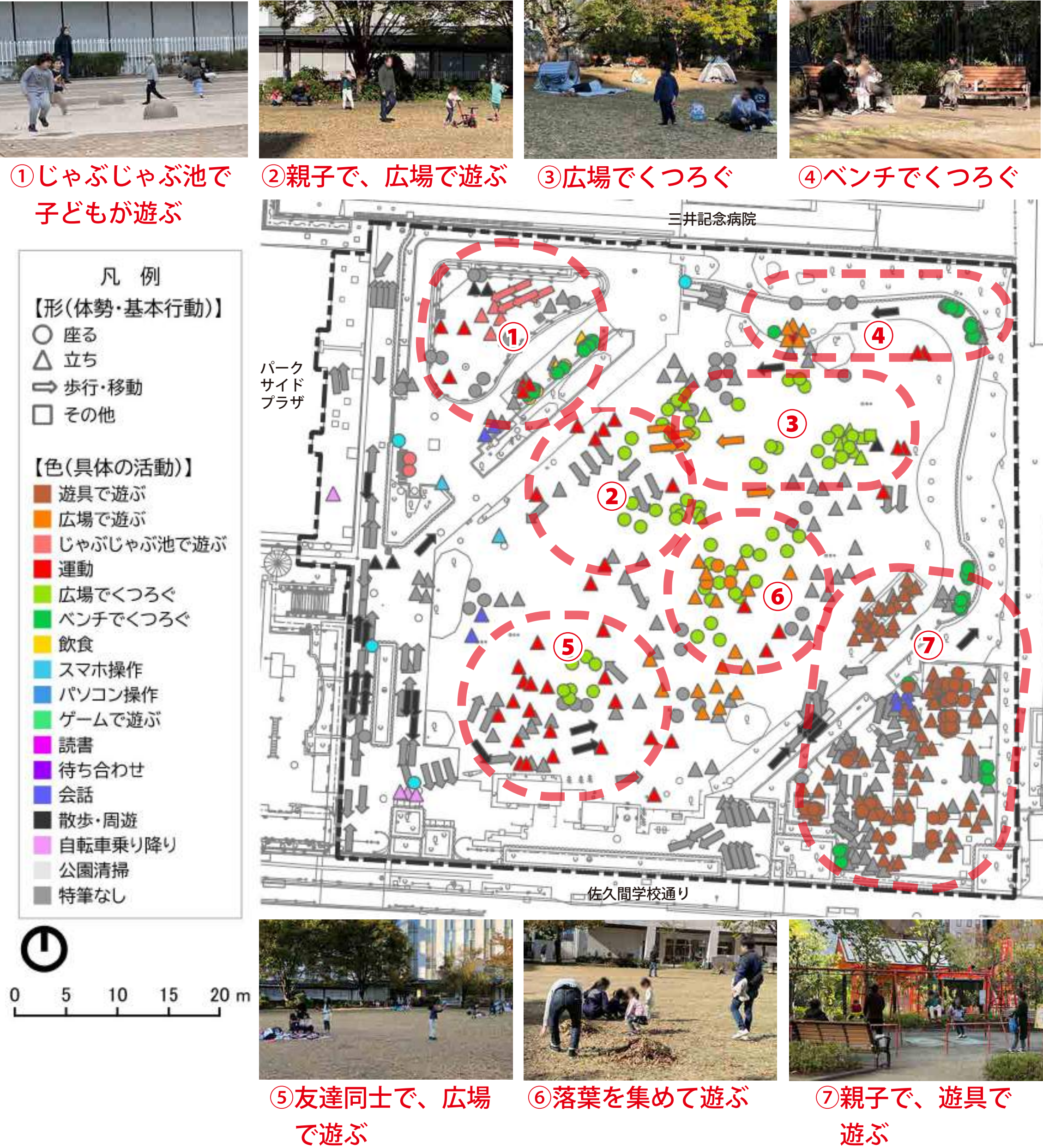
- 施設・公園の再整備において、利用者による多様な活動の創出につながる効果的な空間整備に向け、現在の公園利用者の滞留行動や利用動線の実態から公園空間の特性や活動のポテンシャルを把握
- 滞留行動については、休日・平日共に様々なアクティビティが見られました。芝生広場では、休日はくつろぐ人が多く、平日は活発に遊ぶ人が多い傾向です。また、パークサイドプラザ前の園路は、南北の移動が多い傾向です。
- 休日・平日ともに秋葉原側入口からの流入が最多で、パークサイドプラザ・北側通路・三井記念病院への通過が多く、平日は特にその傾向が強まります。浅草橋側入口からは、広場や遊具等の利用のための流入が多く見られます。

各調査の分析結果

■アクティビティマッピング調査(7:30～16:00の30分ごとの公園利用者分布の重ね合わせ)

- 滞留行動（休憩・飲食・会話等）を把握し、芝生広場・ベンチ・遊具廻り等の空間特性や活動のポテンシャルを分析

【休日(11月24日(日))】



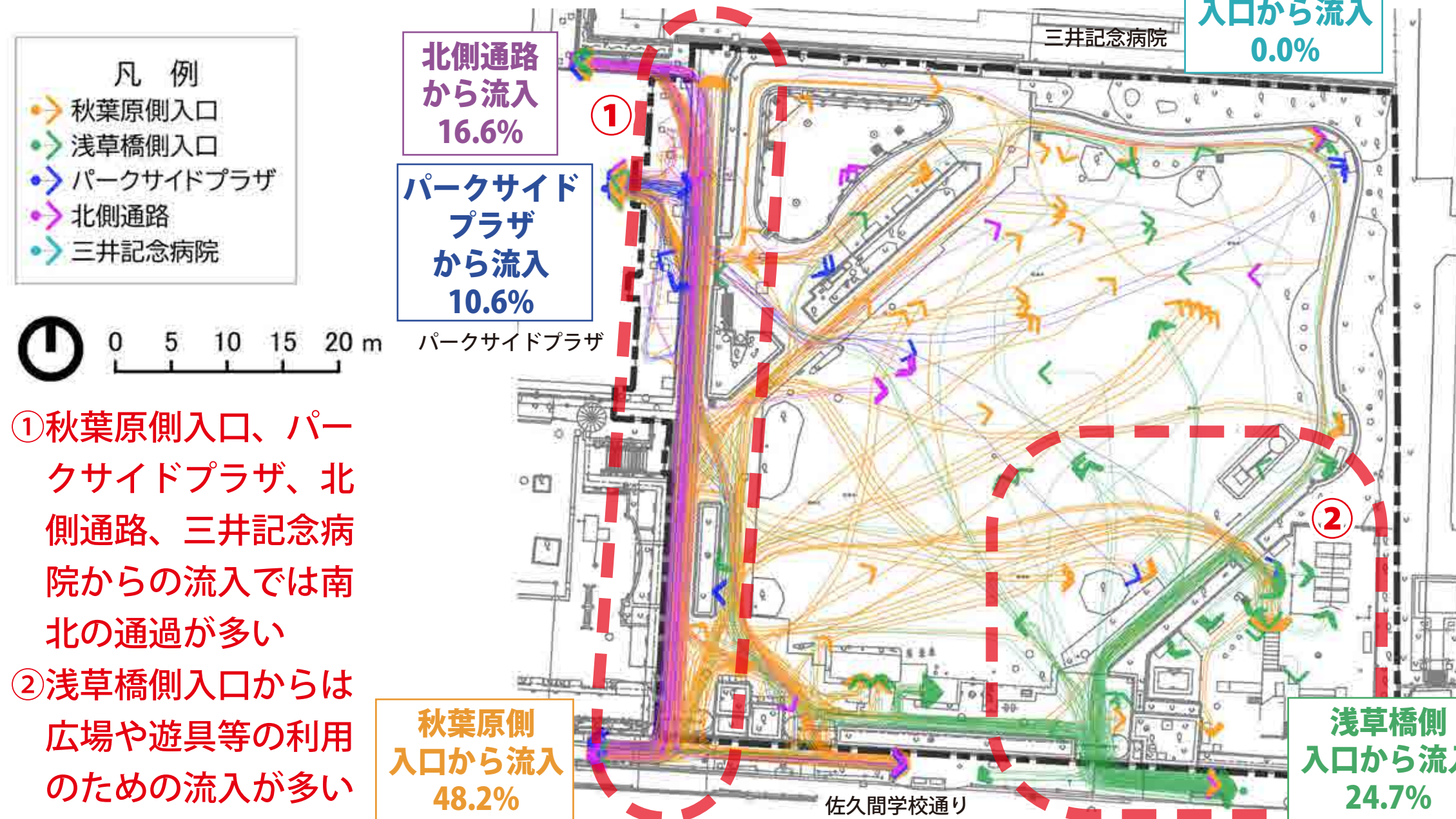
【平日(11月25日(月))】



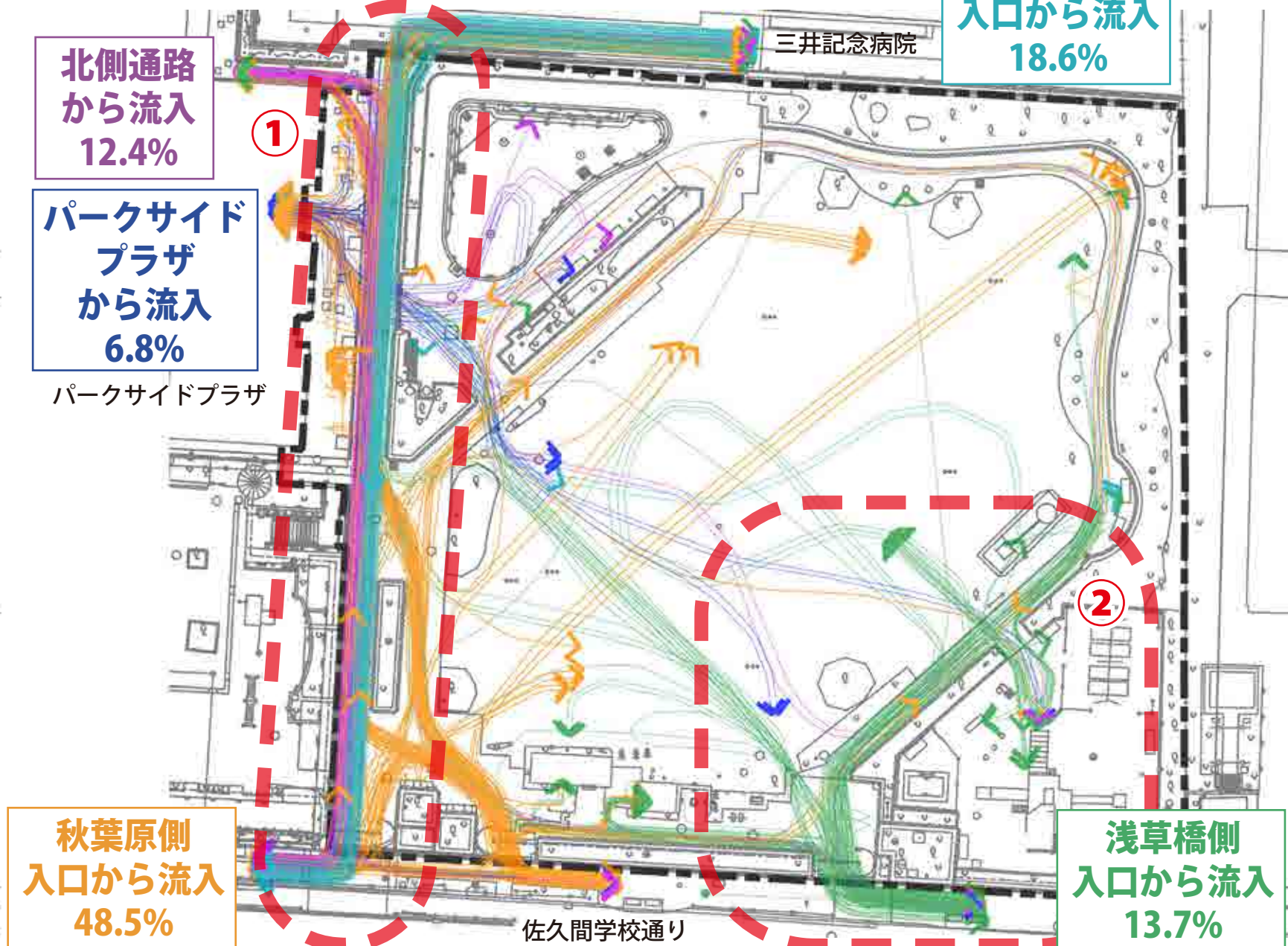
■利用者動線調査(10:00～16:00の30分ごとの公園利用者動線の重ね合わせ)

- 歩行者動線（通り抜け、隣接施設への往来等）から、公園のレイアウトの特性や周囲の敷地との関わり性の強さ等を分析

【休日(11月24日(日))】



【平日(11月25日(月))】

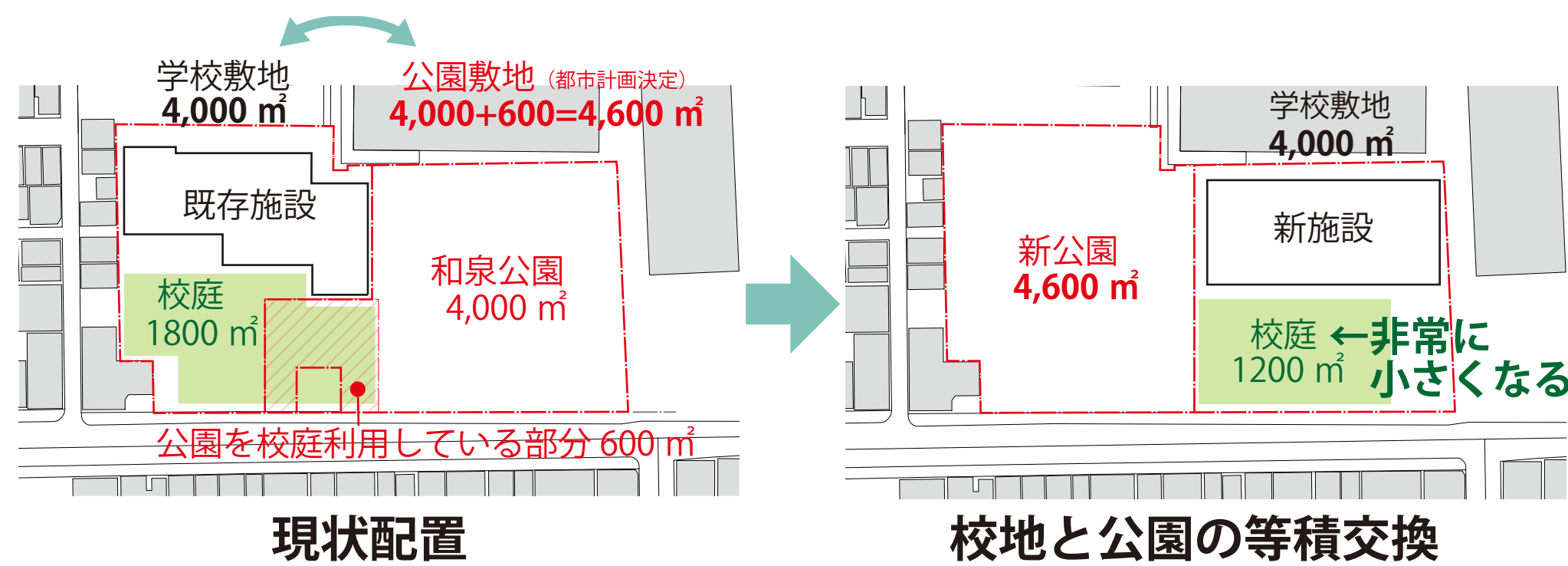


公園と校庭の兼用を考慮した、新公園・校庭の配置パターン検討

- 学校用地と公園用地の単純な等積交換では、十分な広さの校庭が確保できなくなるため、公園と校庭の兼用エリアを設定することで、双方にとってメリットのある再整備となる可能性があります。
- 同じ施設配置パターンに対し、地表面の公園・校庭の取り方は複数考えられるため、公園利用と施設利用の双方の視点から、最適な構成を今後検討してまいります。

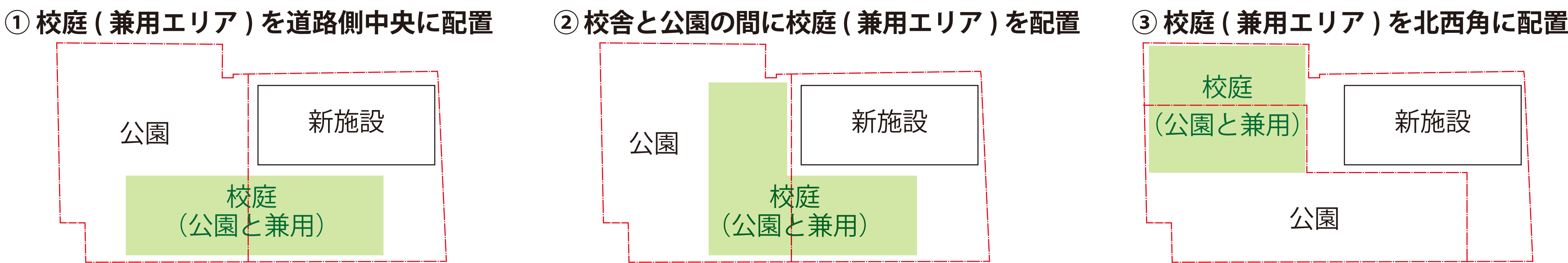
■なぜ公園と校庭の「兼用」を検討するのか？

- 単純に等積で学校敷地 (4,000 m²) と公園敷地 (4,600 m²) を入れ替えると、新校の校庭が非常に小さくなります。
- そこで、両敷地に跨る**公園と校庭の兼用エリア**を設定し、タイムシェアで双方が利用する整備、運用を検討します。
- 従前の和泉小より広い校庭と、従前の和泉公園より広い新公園の獲得という、双方にとって WIN-WIN の方策です。



■新公園・校庭の配置 3 パターン

- 兼用を前提に、地表面の公園と校庭（兼用エリア）の配置を検討すると、以下の 3 パターンの可能性があります。



※校庭と新施設はブリッジなど架空で接続

■新施設配置 3 パターン×新公園・校庭配置 3 パターンの 9 マトリクス

- 施設の比較検討で選んだ 3 パターン（別パネル参照）と、上記の公園・校庭配置 3 パターンの組合せから、9 パターンを自動的に導きました。今後、この中から、地域の方々や学校利用者にとって最適なパターンを探っていきます。

	① 校庭（兼用エリア）を道路側中央に配置	② 校舎と公園の間に校庭（兼用エリア）を配置	③ 校庭（兼用エリア）を北西角に配置
施設配置： L 字ー北東 パターン			
施設配置： 矩形ー北 パターン			
施設配置： 矩形ー東 パターン			

■展示模型の 3 パターン

- 上記 9 マトリクスの中で、現段階で納まりの良いと思われる 3 パターンを、展示では模型化して示しています。



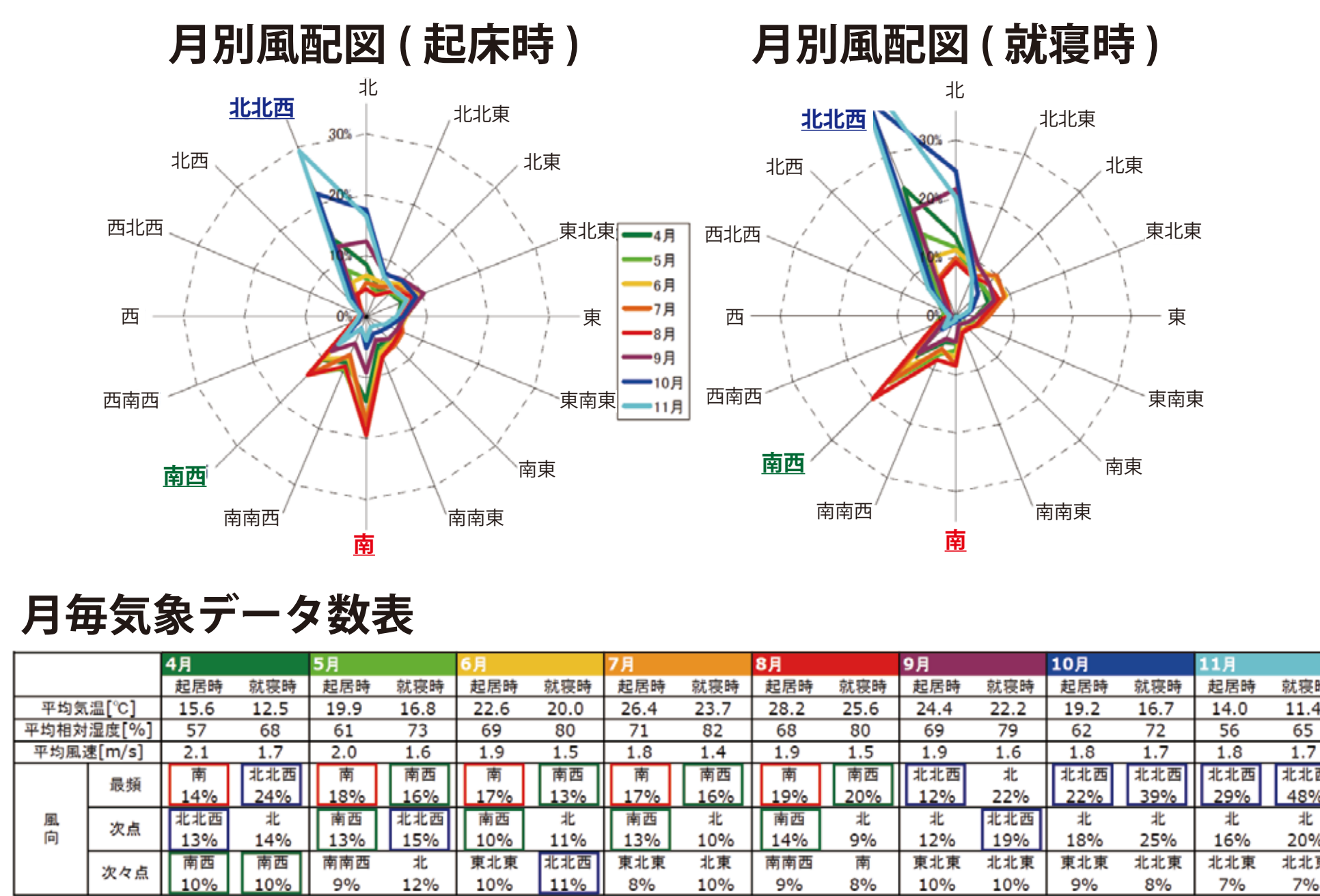
一体的整備の環境への影響評価（風環境シミュレーション）

■ 風環境シミュレーション

- ・現状、和泉公園には強風が吹くことが多いという実態があります。これは、周辺の高層建物による影響と考えられます。そこで、今回の学校施設と公園の配置換えにより、当該敷地の風環境が改善するのか？悪化するのか？を検証しました。
- ・現状の建物・公園の配置においては、南、南西からの風が北側の三井記念病院にぶつかり吹き下ろすことで、公園内に強風エリアが発生していることが分かりました。これは公園利用者へのヒアリング結果と一致します。
- ・本計画のように建物と公園の配置が東西で入れ替わると、新公園への吹き下ろしの風が軽減されることが分かりました。
- ・建物間の隙間からの強い風は現況・計画案ともに確認されましたが、これらは地表面まわりの植栽等の計画によりコントロール可能な範囲であると考えられます。

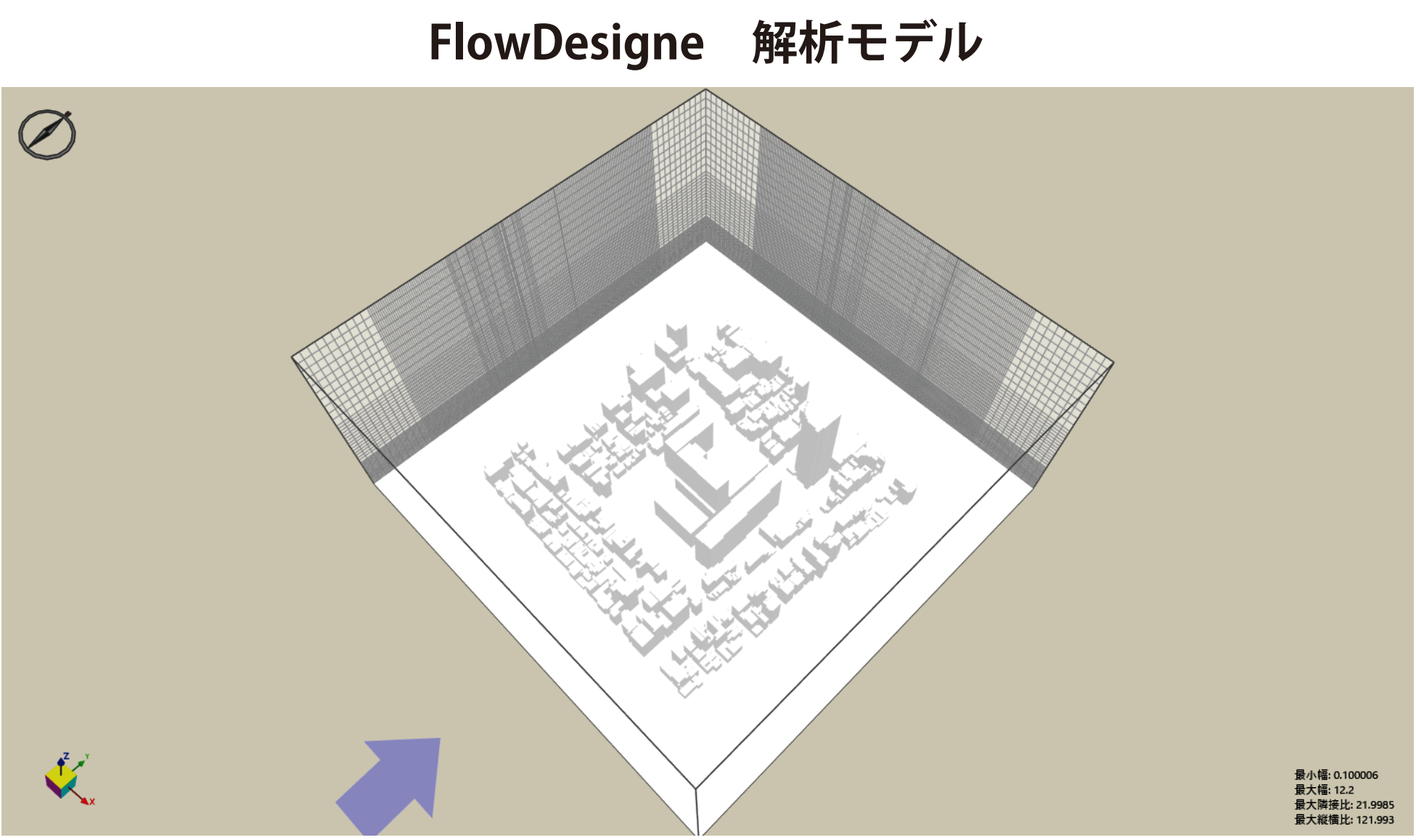
対象敷地の卓越風の把握

- ・気象データをもとに、春～夏の卓越風として**南風**と**南西風**、秋～冬の卓越風として**北北西風**を採用します。



解析 3D モデルの作成、風の入力

- ・敷地内の建物、および敷地周辺の建物の3Dモデルを作成し、解析ソフトで風を入力します。風速は2.0m/sとし、「既存配置」と「矩形一北案」の比較を行いました。



解析結果

- ・敷地を上空から見た図に地表面＋1 mの高さに吹く風の強さを色で示します。（※青色→赤色で、弱風→強風を示しています）

	春～夏の卓越風		秋～冬の卓越風
	南風	南西風	北北西風
既存配置			
矩形北案			
評価	既存配置では、北側建物から跳ね返る風が公園に吹き下ろされていた。計画案では、新設建物が跳ね返りの風を防ぐ為、既存配置に比べ強風域の緩和が実現していると考えられる。		既存配置と計画案に大きな差はない。いずれも建物間の隙間からの部分的な強風が認められるが、植栽等で十分コントロール可能と考えられる。また、北東側隙間からの強風は、計画案では公園や校庭への影響は少なくなることが確認できる。

新施設（小学校＋こども園＋こどもプラザ）の配置パターン検討

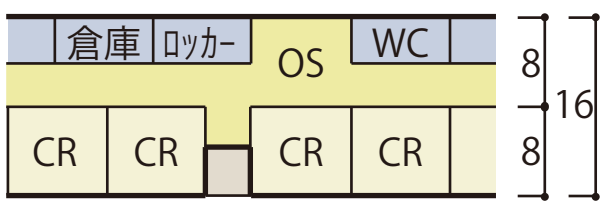
- 学校施設の実例調査から、校舎スパンを 16m,22m,28m の3パターンに絞り、ボリュームを検討しました。16m スパンでは建物階数が増え、体育館の上階設置も困難なことから、スパン 22m,28m のなかで、施設ボリュームの配置パターンを様々な観点から比較検討しました。
- 比較検討の結果、スパン 22m から「L 字 - 北東案」、スパン 28m から「矩形 - 北案」、「矩形 - 東案」の計3パターンが今後の検討対象として可能性があると評価されました。

■ 新施設の配置パターン検討プロセス

学校施設の構造スパンの検討

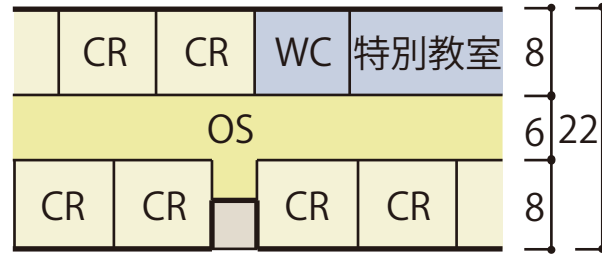
- 学校施設の基本レイアウトの実例調査により、配置検討に用いる建築の構造スパンの可能性を検討しました。

A. 片廊下型（スパン 16m）



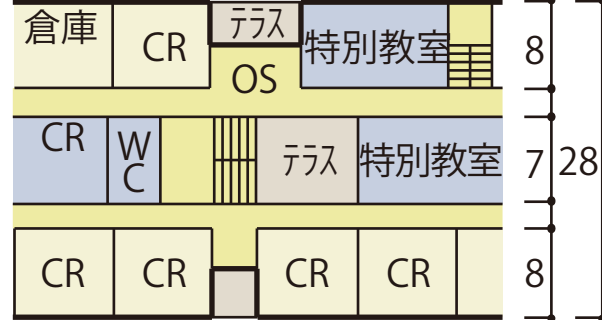
- 利点
採光や眺望等を各普通教室で平等に確保可能
- △欠点
横並びの教室間の連携がとりにくい

B. 中廊下型（スパン 22m）



- 利点
廊下をオープンスペースとし、対面する教室と組み合わせた学習の展開が可能
- △欠点
教室の配置方位によって採光環境等の差が生じる

C. 中央コア型（スパン 28m）



- 利点
廊下に回遊性を持たせ多様な居場所を創出可能
- △欠点
教室の配置方位によって採光環境等の差が生じる

構造スパン別の配置の検討

- 構造スパン別の配置パターンを網羅的に確認します。
- 高層すぎる等可能性のないパターンは × としています。

	矩形	L 字
A 片廊下型 (スパン 16m)		
B 中廊下型 (スパン 22m)		
C 中央コア型 (スパン 28m)		

詳細な評価項目で比較をし、実現の可能性が高い配置パターンを検討

- スパン 22m（中廊下型）から 3 パターン、スパン 28m（中央コア型）から 3 パターンの計 6 パターンの施設配置について、建物と外部空間の双方の視点から評価を行いました。
- 結果、「L 字 - 北東案」、「矩形 - 北案」、「矩形 - 東案」の計 3 パターンが総合的に高い評価となりました。

	A.現況配置	B.中廊下-矩形-南案	C.中廊下-L字-北東案	D.中廊下-L字-南東案	E.中央コア-矩形-北案	F.中央コア-矩形-東案	G.中央コア-矩形-南案
配置図							
階数	地上 7 階 地下 2 階	地上 9 階 地下 2 階	地上 7 階 地下 2 階	地上 7 階 地下 2 階	地上 8 階 地下 2 階	地上 9 階 地下 2 階	地上 8 階 地下 2 階
公園面積	4,000㎡ (他600㎡の部分には学校関連施設)	3,200㎡	3,200㎡	3,200㎡	3,200㎡	3,200㎡	3,200㎡
兼用面積	なし	2,400㎡	2,400㎡	1,900㎡	2,300㎡	2,650㎡	2,100㎡
学校面積	4,600㎡ (うち600㎡は公園を校庭利用)	3,200㎡	3,200㎡	3,700㎡	3,300㎡	2,950㎡	3,500㎡
建築計画		△	○	○	△	△	△
施設							
隣地への影響							
北側(病院)		◎	△	○	△	△	◎
南側(道路)		○	○	△	◎	△	△
東側(日通ビル)		△	△	△	○	×	◎
利用・管理のしやすさ		△	○	○	△	△	△
施設と公園の関係		○	○	○	△	△	○
校庭							
配置(日当たり)		△	○	△	○	○	△
利用のしやすさ(形状)		△	○	△	△	○	△
公園							
前面道路に対する間口の大きさ		◎	○	◎	△	△	◎
利用のしやすさ(形状)		○	○	△	○	△	○
南側敷地の斜線制限緩和		△	○	△	◎	○	△
断面 (1階あたり高さ4m、屋内体育館は高さ8mを想定) ※各階の用途を色で示します。 小学校 こどもプラザ こども園							
総合評価		△	○	△	○	○	△

整備構想素案たたき台

■再整備の方向性

全体に係る再整備

■学校と公園が連携した施設づくり

- ・和泉小学校等施設と和泉公園との連続性を確保し、限られた学校敷地の中でも子どもたちの教育活動を充実させ、遊び場としても身近に自然を感じられる公園活用
- ・都心地でのより広い公園確保のため、校庭と共用することで地域のにぎわいの場・自然の景観形成に貢献
- ・地域並びに隣接する病院や民間企業との協働の場として、様々な地域活動の場や災害時の拠点として機能
- ・校庭と公園の利用者双方が安心して利用できる管理運営のあり方の検討 など

和泉小学校等施設に係る再整備

■新たな教育需要にも対応可能なゆとりある教育環境を整える

- ・児童数の増減、多様な学習形態、ICT 教育環境への対応
- ・異年齢同士の交流、共に成長できる環境、小学校、こども園、児童館的機能の独立性と連携
- ・メンテナンス、改修等に柔軟に対応できる施設計画 など

■安全・安心を確保しながら、心身の健康と環境に配慮した施設づくり

- ・教育施設と地域利用部分とを分けて安全性を重視
- ・限られた敷地を最大限活用し、思い切り身体を動かし、健やかでたくましい心と体の育成
- ・子ども自身と子どもを取り巻く環境の多様性を受け止める寛容な施設計画
- ・都心のなかでも、自然や四季を感じられる建物、省エネルギー化の推進 など

■地域に開かれ、ともに育む、防災拠点にもなる施設づくり

- ・学校を取り巻く様々な人々が活動する、地域の子育て、コミュニティ活動、生涯学習の場の創出
- ・災害発生時には地域と連携し、避難場所、防災拠点として機能
- ・旧佐久間小学校及び旧今川小学校、和泉小学校の歴史・伝統・校風の継承 など

和泉公園に係る再整備

■様々な活動を受け止める都会のオアシスの創出

- ・都心部の駅至近にありながら、人々に癒やしを提供する伸びやかなみどりのオープンスペースの創出
- ・多様な利用者を受け入れるバリアフリーでインクルーシブな公園環境の実現
- ・夏場の利用を促進する日陰や設えの用意
- ・隣接する小学校やこども園等、地域の方や団体が活動・協力できる余地の確保
- ・各種イベント、災害時の活動等に配慮したインフラ施設の整備 など

■周辺環境とのつながり・連続性の維持向上

- ・通り抜け動線や周辺施設の利用動線の継続確保
- ・周囲の緑環境との連続性の確保

■医療、防災等の地区の歴史的特徴を継承

- ・地域の防災の拠点としての活用
- ・大規模災害時のトリアージ空間としての利用を想定した整備

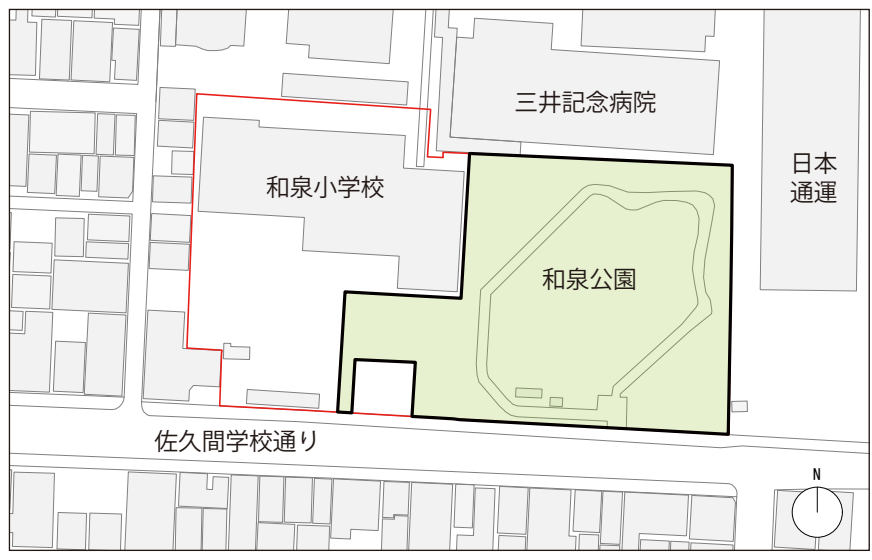
- ・セキュリティ面に十分に配慮した校庭との一体的利用
- ・公園にいざなうエントランス空間の創出 など

- ・雨水流出抑制に貢献するグリーンインフラ等による環境への配慮
- ・地域の歴史等を示すサイン等の設置 など

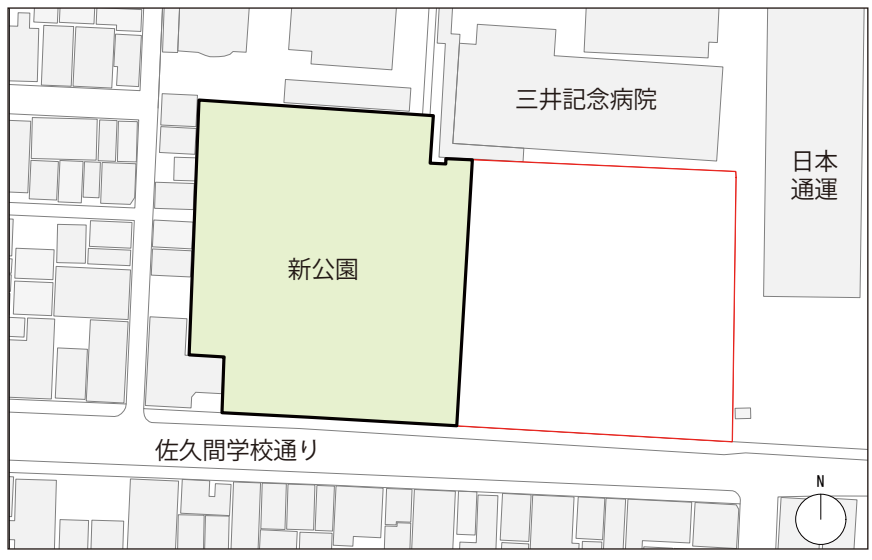
整備を実現するために必要なこと

■都市計画公園の変更

- ・和泉公園は、都市計画法に基づき、公園として位置・規模が定められ計画的に整備される都市計画公園です。今回、学校敷地との入れ替えを行う計画に伴い、新たな敷地を都市計画公園区域として指定し直す必要があります。



現行の都市計画公園区域



整備後の都市計画公園区域（想定）

■学校と公園の段階的な入れ替え整備

- ・整備については、まず和泉公園を解体し、その場所に新しい校舎を建設した後、現在の校舎がある場所へ新たな公園を整備するという段階的な方法をとる必要があります。これにより、一時的に和泉公園を使用できない期間が発生するため、その間の代替公園の確保についても検討します。

